

# 課題解決への見通しをもつ力を育む中学校保健体育科指導の在り方（第二年次）

－「学びの視点」を基に、運動実践と検証を繰り返す学習場面を通して－

長期研究員 桃井 陽介

## 《研究の要旨》

本研究では、中学校保健体育科体育分野において、課題解決への見通しをもつ力の育成を目指した。そこで、「学びの視点」を基に、仲間との対話やワークシートを用いて、解決に向けた対策を繰り返し検証して運動を行った。それによって、多くの生徒が対策を修正・改善しながら解決に向かうことができた。このことから、「学びの視点」によって運動への多様な関わりを自覚させることで、課題解決への見通しをもつ力が育成された。

## I 研究の趣旨

中学校学習指導要領解説保健体育編では、思考力、判断力、表現力等の目標及び内容として、既習の知識や技能を活用して、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することや、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること、運動を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けることなどが大切であると示されている。また、「第7次福島県総合教育計画」では、画一的な一方通行の授業等から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革し、生徒の資質・能力を確実に育成することが求められている。これらのことから、生徒が協働を通して、自ら課題解決に向かうための思考力、判断力、表現力等を育成する指導が求められていると考えた。

そこで、本研究では、「課題を発見し、解決に向けた予想の下、対策を講じ、振り返って効果を検証する力」を、課題解決への見通しをもつ力と定義し、育成を目指した。第一年次研究では、課題解決の過程を『課題の発見』、『予想と対策』、『振り返り』の三つの思考場面とし、運動・スポーツへの多様な関わり方に準じて設定した「学びの視点」※1から、運動の分析や仲間との対話を行って課題解決に向かう学習をした。これによって、自己の課題を見付け、対策を講じて解決に迫る姿が見られた。一方で、講じた対策の効果を検証し、修正・改善していくことを目指したが、実現した生徒は限られていた。そのため、毎時間の振り返りが充実せず、単元末の『振り返り』でも、課題解決学習の成果を実感できない生徒がいた。

以上のことから、第二年次研究では、『予想と対策』を『予想の下に講じた対策を検証し、改善する（以下、対策の検証と改善）』とし、検証をより重視する。生徒が「学びの視点」を活用し、仲間と共に対策の効果を検証することで、対策をよりよく改善しながら課題解決へ向かう姿の実現を目指す。また、単元末の『振り返り』では、『課題の発見』と『対策の検証と改善』の全体を振り返ることで、自ら学び、運動実践と検証を繰り返して課題

解決に向かった成果を実感できるようにしたい。そうすれば、次の学習や他の競技でも見通しをもって課題解決に向かうようになると思う。これら二つの思考場面によって、「解決に向けた対策を考える力」や「振り返って検証する力」が高まり、課題解決への見通しをもつ力を育成することができると考えた。

※1 本研究では、体育の見方・考え方に示される運動・スポーツへの多様な関わり方に準じて、「する・みる・支える・知る」の四つに整理し、自他の課題を発見し、改善するための視点として定義した。

## II 研究の概要

### 1 研究仮説

保健体育科の授業において、以下の手立てを講じれば、課題解決への見通しをもつ力を育成することができるだろう（図1）。

【手立て1】運動実践と検証のサイクルを機能させる  
「学びの視点」の活用

【手立て2】学習成果を実感させる振り返り場面での  
「学びの視点」の活用

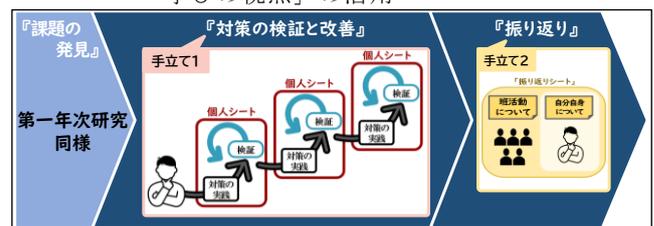


図1 単元の課題解決過程と手立ての位置付け

### 2 研究内容

本研究では、図2のように『対策の検証と改善』、『振り返り』の場面で「学びの視点」を活用する。

	学びの視点				自他の課題を発見し、改善するための視点	
	する (運動、試行)	みる (観察、比較)	支える (教え合い、助け合い)	知る (知識、理解)	知る	知る
手立て1	試す、確かめる	観察する、比較する	教え合う、助け合う	調べる、理解する		
手立て2	できるようになったこと	観察や比較から気付いたこと	教え合ったり助け合ったりしたこと	わかったことや理解が深まったこと		

図2 手立てにおける「学びの視点」

(1)【手立て1】運動実践と検証のサイクルを機能させる  
「学びの視点」の活用

『対策の検証と改善』の場面において、運動実践と「学びの視点」による検証を毎時間繰り返し、よりよい対策

への修正・改善を図る。

まず、解決に向けた予想の下に対策を考える。次に、対策を実践し、検証結果から改善策を考える。その際、「学びの視点」(図2上段)を手掛かりに仲間との対話による検証を行う。これによって、多様な気づきを得たり考え方を取り入れたりして、検証の精度を高める。そして、対話で深めた考えを個人の反省シート(以下、個人シート)に記入し、本時の学習内容を、次時の具体的な目標につなげられるようにする。そうすることで、自己の考えや気づきを基に、運動の取り組み方を工夫し、よりよく課題解決へ向かうことができるようにする。

## (2)【手立て2】学習成果を実感させる振り返り場面での「学びの視点」の活用

単元末に「学びの視点」(図2下段)を活用し、学習の成果を振り返る。自分自身や仲間、班の変化や成長に気付くために、自分自身と班活動の二つについて、単元の振り返りシート(以下、振り返りシート)に自分の考えを記述する。その際、【手立て1】の個人シートや撮影した授業の映像を基に振り返ることができるようにする。そうすることで、『課題の発見』で自分の課題や班の共通課題を発見したことや、『対策の検証と改善』で運動実践と検証を繰り返したことから成果を捉え、運動への多様な関わり方を通して考えたことを自覚できるようにする。

## 3 研究の実際

対象生徒 第3学年 62名(2学級)  
授業実践Ⅰ 「球技 バレーボール」(10時間)  
授業実践Ⅱ 「球技 サッカー」(8時間)

本稿は、授業実践Ⅱを中心に述べる。また、学習で活用する主な「学びの視点」を〈視点〉として示す。授業実践Ⅱでは、チームの課題解決に向けて繰り返し検証を行う単元構想とし、「スペース(空いた場所)」を活用してチームの課題解決を目指すことを目標とした。

まず、『課題の発見』においてミニゲームを行い、その様子を撮影した。次に、撮影した映像を基に、基本的な技術やチームワークのチェック項目と照らし合わせて個人の課題を見付けた。さらに、班で解決したいと考える内容や班員同士で共通するチェック項目について話し合い、チームの課題に応じた目標を設定した。

### (1)【手立て1】について

『対策の検証と改善』では、対策の実践と検証を交互に設定することで、対策の効果を確かめながら課題解決へ向かうことができるようにした。

第4時では、スペースの活用について、班の課題解決に向けた対策を相談した。模範映像や資料を参考に、ゴール前へ侵入するための連携した動きなどを選び、どの

ような工夫が必要になるかを考えた〈みる・知る〉。その際、既習の知識を活用できるように、以前に行った球技の学習を想起するよう助言をしたところ、コート of 広さやルール等の違いに着目し、ポジションのバランスを考えたり、攻防の際に狙うべき場所を提案し合ったりして対策を立てた〈支える・知る〉。次に、第5時、第6時では、班練習やゲームで対策の効果を確かめた〈する〉。運動を実践してみて気付いたことや、軽微な問題はその場で声をかけ合って修正していた〈みる・支える〉。チーム課題への対策については運動後の対話で検証した。

第6時のゲーム後の対話場面では、多様な視点から対話が行われるよう促した。図3は、運動の実感について「学びの視点」を基に検証し、課題解決に近付いた様子である。教師が「スペースを活用することができたか」と発問すると、C1が「(スペースを)使えました〈する〉」と答えた。それに対し、C2は後方から観察していた様子を基に、改善の余地があるのではないかと提案した〈みる・支える〉。C3やC4も参加し、自身が感じたことや考えたことについて、場面を思い出しながら意見を出し合い、「スペースが見つけれられても、そこに走り込む人が必要だった」と問題点を明らかにした〈支える・知る〉。さらに、生徒たちは、その後の対話で「相手コートに広がってスペースを狙う」という、問題点に対する具体的な改善策を見いだしていた。

T:スペースはうまく使えた?  
C1:使えました!(運動の実感から)  
C2:え、でもあれじゃん。あつちで試合した時さ、C3が空いているスペースに(ボールを)やったけど…。(観察した内容から)  
C4:やったけど、人がいないんで。(問題点の指摘)  
C2:結局(味方が)いなくて…だめだった。  
T:じゃあスペースで待っている人がいなかったんだ。スペースを見付けて(パスを)送ってくれてはいたんだ。  
C2:そうです。

図3 対策の効果を検証する対話

このように、C1は、運動の実感だけでなく発問をきっかけに広がった対話を通して、多様な視点に気付く機会を得ていた。また、他の生徒たちも、互いの気づきや考えを基に、多様な視点を組み合わせて改善策を考える様子が見取れた。

第7時は、前時の改善策を基に相手コートに三角形に広がる攻撃の作戦を立て、実践して効果を確かめた〈する〉。相手からボールを奪うと、広がるようにスペースに向かって走り出し、パスをつなごうとする動きが増えた。そして、C2がボールを奪うと、作戦通りにスペースでボールを受けたC1がゴール前につなぎ、得点が発生した。チーム全員で喜びを分かち合っていた姿から、仲間と協働し、ねらいをもって考えた改善策の効果を実感したことがうかがえる。

このような対策の実践と検証の内容を、毎時個人シートに記入して内省した。その際、「学びの視点」を基に考

えをまとめられるように、生徒が活用した視点に丸を付ける欄や、内容を記述する欄を設けた。さらに、対策の効果から考えられる次時の目標を記入し、どのように改善を図るかを考えた。これによって、生徒は毎時の運動や対話の中から活動の効果を見付け、次時の目標を考えることで、改善の見通しをもつことができるようになった(図4)。

月	今日の振り返り	できた・試したことや気付いたこと、わかったことや教え合ったことなど	する	みる	支える	知る
日	次時の目標	上記の内容を、どのように次時で活用するかできなかったこと等を、どのように改善するか	できた	気付いた	アドバイス	わかった
10月	今日の振り返り	三角形を意識すればシュートは正確になる。みんなが練習を頑張ったので、自分も練習を頑張った。今日は、練習で学んだことを試合で活かす。	する	みる	支える	知る
3日	次時の目標	今日は、練習で学んだことを試合で活かす。	できた	気付いた	アドバイス	わかった
日	目標	今日は、練習で学んだことを試合で活かす。	できた	気付いた	アドバイス	わかった

図4 個人シートの内容と第7時の振り返り

このように、課題解決へ向けた対策の効果をもとに運動で確かめながら、互いにアドバイスを考えたり、共通理解を図ったりしたことで、チーム課題の解決に向かって協働する姿が見られた。また、これらを個人シートに記録して自分の考えや気づきを内省することで、毎時の学習内容をつなげ、生徒が対策をよりよく改善していく様子も確認することができた。

(2)【手立て2】について

単元末の『振り返り』では、学習の成果を振り返りシートに記述することで、仲間と協働しながら対策の改善を図ったことによる思考の深まりを捉えさせた。

生徒Aは、サッカーへの苦手意識が強く、自分だけでは課題解決の方法を考えられずにいた。しかし、仲間との関わりの中でアドバイスを受けたり、自分の考えを伝えたりする経験を通して、アドバイスを基に改善することの大切さを学んだと記述していた。これは、〈支える〉から『対策の検証と改善』を振り返り、仲間との関わりや対策の実践から成果を実感する様子だと考える(図5赤)。また、班と自分自身の活動を関連させて振り返ったことで、苦手だったサッカーについて理解を深め、好きになったと記述していた。これは、〈知る〉から運動についての考え方が変わった姿と捉えられる(図5青)。

班活動	初めはみんな意見やアドバイスをする人がいなくて不安でした。ですが試合をしていくうちに経験が増え、お互いにアドバイスしあったり自分から発言する人が増えて、自分も少しは発言できるようになりました。プレーでも、シュートを決められた試合が何回もありました。 <b>自分から発言したり、みんなでアドバイスし合うだけでもこんなにも変わることができ、良い経験になりました。(一部省略)</b>
自分自身の活動	自分のダメなところは <b>あんがい自分でわからないことが多いのでたくさん聞いて、直すように心がけました。</b> その結果少しずつ良くなって、褒めてもらえるようになりました。今回は苦手なサッカーだったので、 <b>アドバイスをもらい改善することの大切さを学びました。</b> サッカーがあまり好きではなかったのですが、少しはルールも理解し、好きになりました。(一部省略)

図5 生徒Aの振り返りシート記述

生徒Bは、学習支援アプリを基に自分たちの動きを比較し、様々な「学びの視点」から活動の反省をしたことが効果的だったと実感していた。互いの動画や資料の模

範映像を見比べ、班の話合いによって自己の動きを見直し、連携した動きを試合で確かめるなど、多様な視点に関連させて学習の成果を振り返っていた〈する・みる・支える〉。また、【手立て1】の個人シートや班の対話の記録を見直したことで、これまでの学習のつながりや自身の変容に気づき、「成長出来たと感じるが多かった」と記述していたことから、学習した内容から多様な成果を捉える姿が確認できた(図6)。

班の人と相談したり、動画を見たりしてボールの蹴り方や足の向きを意識するようにすると <b>しっかりと相手にパス出来たり、ボールを保持することが出来るようになりました。</b> 同じチームの人とよく <b>反省点や改善点を出し合ったり、戦略を考えたりしたので自分の改善点を見つけられたり、</b> 前回の時よりも <b>成長出来たと感じるが多かった</b> と思います。(一部省略)
--

図6 生徒B「学びの視点」を基に振り返る記述

これらのことから、生徒一人一人が『課題の発見』で自分がどのように課題を見だし、『対策の検証と改善』でどのような対策を立て、解決に向かったのかを捉えることができた。それによって、課題解決学習の成果を振り返って実感することができた。また、「学びの視点」を基に振り返ることで、仲間と協働して課題解決に向かう喜びを感じたり、自身の成長や前向きな気持ちへの変化を自覚したりする記述も見られた。

III 研究のまとめ

1 検証と分析

課題解決への見通しをもつ力を、定義を基に「課題を発見する力」、「解決に向けた対策を考える力」、「振り返って検証する力」の三つに分け、第一年次研究からの変容を測った。「課題を発見する力」は、第一年次研究と同様の効果があったものとし、第二年次研究の手立てに対応する「解決に向けた対策を考える力」と「振り返って検証する力」をそれぞれ第一年次研究の検証結果と比較し、変容を分析した。

(1)「解決に向けた対策を考える力」について

① 個人シートの記述分析から

「解決に向けた対策を考える力」について、「具体的な対策を考えていたか」と「多様な視点から検証していたか」の2観点から個人シートの記述を分析し、比較した。

その結果、図7のように観点を満たす生徒の割合が有意に増加した。

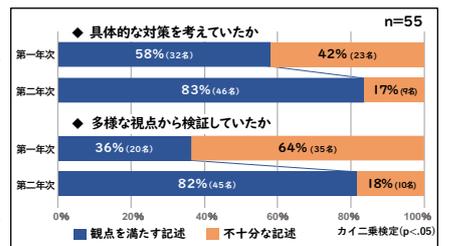


図7 「解決に向けた対策を考える力」の変容

② 生徒の運動の姿から

『対策の検証と改善』による生徒の運動の変容を測るために、「スペースを活用する動き」を、仲間と連携して

ゴール前のスペースを使い、シュートをする動きと捉え、ミニゲームの映像を確認した(図8)。

第3時と第7時の数値を比較すると、シュート数、得点数に比べて試合中のキープ数(シュートにつながるパス)数が大きく増加していることが分かった。これは、

【手立て1】で対策を効果的に改善できたため、相手ゴールへ迫る際に、仲間と連携して「スペースを活用する動き」が増加したと考える。

	キープ数	総シュート数	得点数	チャンスクリエイト率 <sup>※2</sup>
第3時 (12試合)	16	56	16	28.57%
第7時 (12試合)	32	51	19	62.74%

※2 本研究では、仲間との連携からシュートチャンスを作り出した割合と捉え、(キープ数/総シュート数)で計算した。

図8 技能項目の集計結果

これらのことから、生徒が【手立て1】によって考えを深め、対策を改善することで「解決に向けた対策を考える力」が高まり、技能の習得にも効果があったと推察する。

## (2) 「振り返って検証する力」について

### ① 振り返りシートの記述分析から

「振り返って検証する力」について、「具体的な活動を記述していたか」と「多様な成果を捉えていたか」の2観点から振り返りシートの記述を分析し、比較した。その結果、図9のように観点を満たす生徒の割合が有意に増加した。

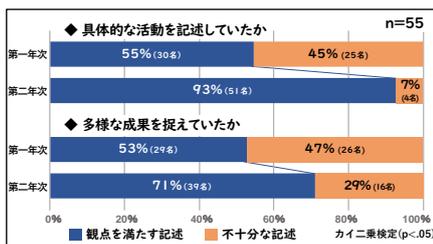


図9 「振り返って検証する力」の変容

### ② 意識調査の結果から

「振り返って検証する力」の効果を意識調査から確認するため、授業実践の前後に行ったアンケート結果を分析した。アンケート(5件法)の平均値を測り、t検定で変容を調べた。

図10の学習意欲に関する2項目において、第一学級研究実践前から第二学級研究実践後で有意に上昇した。

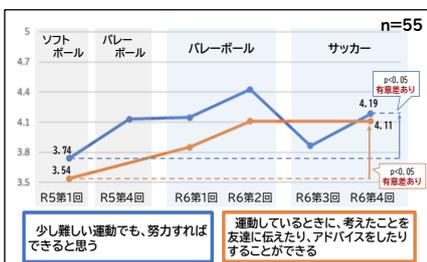


図10 学習意欲に関する項目の変容

これらのことから、生徒が【手立て2】によって、「学びの視点」を活用して考えをまとめ、課題解決学習の成果を実感していたと考えられる。それによって、挑戦心や協働学習への意欲が高まったと推察する。

### (3) 「学びの視点」の活用について

「学びの視点」活用の傾向を分析するために、視点を活用した全記述を抽出し、それぞれの割合を調べた。研究の実際に示した第4時、第6時、第7時の個人シート

記述内容を確認したところ、すべての場面で〈する〉が働き、それに付随して〈みる・支える・知る〉が使われていた(図11)。また、「学びの視点」同士に相関は見られなかったものの、図6のように多様な視点を組み合わせさせた生徒は、理由を明らかにして改善策を考えていた。

一方で、視点が一つだけの生徒は「もっと〇〇する」や「積極的に〇〇したい」など、曖昧な表現や情意面の記述にとどまっていた。対策を検証する際に、どの「学びの視点」から記述をするかが生徒任せになっていたことが原因だと考える。

	する	みる	支える	知る	多様な視点を組み合わせた記述	視点が一つだけの記述
個人シートの記述 第4時	98.21%	33.93%	16.07%	30.36%	59.65%	40.35%
個人シートの記述 第6時	100%	39.29%	21.43%	23.21%	56.15%	43.85%
個人シートの記述 第7時	100%	37.50%	25%	3.57%	57.90%	42.10%
振り返りシート の記述	100%	43.64%	87.27%	32.73%	92.73%	7.27%

図11 「学びの視点」の活用

振り返りシートでは、授業時と比べて〈支える〉が多く記述されていたが、〈みる・知る〉の割合は授業と同程度だった(図11下)。また、視点が一つだけの生徒は、運動の結果のみに着目する傾向があり、どのように課題を見だし、解決に向かったのかを振り返ることができていなかった。このように「学びの視点」を提示しても、多様な視点から成果を捉えることができず、振り返りシートの記述に偏りが見られた生徒がいた(図12)。

ダブルで抜いて点を取れた。こぼれ球にも素早く反応して拾いに行けた。そこから、ダブルにつなげられてよかった。ハーフラインからシュートを意識させながらダブルで意表を突く攻撃ができた。

図12 「学びの視点」に偏りがある記述

これらのことから、生徒が多様な視点を活用するには、授業のねらいに沿った教師の意図的な働きかけや、場面設定の工夫が必要だったと推察される。

## 2 成果と課題

### (1) 研究の成果

課題解決に向けた対策の検証と改善を通して「解決に向けた対策を考える力」が高まった。また、『振り返り』で学習成果を実感したことで「振り返って検証する力」が高まった。このことから、生徒が「学びの視点」によって運動への多様な関わりを自覚し、課題解決への見通しをもつ力が育成されたと考える。

### (2) 今後の課題

「学びの視点」の活用に偏りがある生徒がいた。『対策の検証と改善』で個人シートの記述が〈する〉に偏っている生徒に対して、他の「学びの視点」に気付けるように問いかけたり、授業のねらいと一致する「学びの視点」を提示したりする教師の意図的な働きかけが必要だった。また、多様な視点を組み合わせられるよう指導を工夫することで、さらに見通しをもつ力が高まると考える。